



令和8年5月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

新たな海藻利用研究を始めます

黒潮大蛇行等による海洋環境の変化により、カジメやモク類等の大型海藻の衰退が確認される一方で、これまでほとんど見られなかった海藻の着生も確認されています。

その中には新たな利用が期待できる種があります。例えばトサカノリは、伊豆諸島や九州西岸では食用として漁獲されていますが、伊豆半島では本格的な漁業活動は行われていません。

また、伊豆半島西岸で確認されているカギケノリは、牛のゲップ中のメタンガスの抑制に寄与するプロモホルムを含有しており、地球温暖化対策への利活用が期待されています。

そこで、当场では伊豆半島沿岸域の海藻の着生状況を把握するとともに、新たな利用が期待できる海藻を選択し、漁獲対象としての可能性を検討する研究を新たに開始します。



←トサカノリ



カギケノリの群落（左）と藻体（右）

大熱海漁協であわび種苗を放流

4月16日に大熱海漁協であわび種苗の放流が行われました。温水利用研究センターで生産されたクロアワビ11,900個、メガイアワビ10,700個が、漁協管内の5地区に配分されました。熱海地区では、放流後の生き残りを向上させるために、魚やタコ等の外敵が少なく、餌となる海藻が多い浅い磯に稚貝を放流しました。伊豆地域では、夏前までにいくつかの地区であわび稚貝の放流が行われる予定です。



親子で地元の漁業を学ぶ

26日に谷津漁港で、NPO法人あおぞらビレッジによるイベント「漁師さんと学ぶ伊豆の海とエビ網お手伝い体験」が開催されました。

同団体は地域資源を生かした体験活動を毎月企画しており、今回は賀茂地域の親子約10組が早朝から参加し、エビ網に掛かったイセエビや魚を外す「網外し」体験を行いました。当场職員は講師として参加し、エビ網に掛かった生き物についての説明等を行いました。子供たちは好奇心旺盛に網外し作業を行い、その後、網から外したカニやエビの入った味噌汁で朝ご飯を食べてイベントを終えました。こうした体験をきっかけに、子供たちが地元の海や漁業に愛着を持ってくれることを期待します。



5月の予定 ●潜水調査（白浜、雲見ほか） ●イセエビ測定（田牛、下流） ●キンメダイ親魚採捕調査 ●大熱海ヒラメ搬入（12日） ●三島市中学校展示室見学対応（13日） ●宮崎県キンメダイ漁業視察対応（14～15日） ●キンメダイ資源評価担当者検討会（18日） ●下田高校研修対応（22日）

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：<https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu>

会場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。